

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
17107006	更新世から縄文・弥生期にかけての日本人の変遷に関する総合的研究	溝口 優司（国立科学博物館・人類研究部・研究グループ長）	A
沖縄の旧石器時代と北海道における縄文時代の分析は順調に進展しており、縄文時代人とオーストラリア旧石器時代人との類縁関係や、北海道と東北の縄文時代人との母系的類縁関係が明らかになってきたことは注目に値する。しかし、当初計画していた DNA の分析が遅れており、とくに本州中央部の縄文人骨の DNA 分析を早急に開始する必要がある。また、研究者間の連携があまりよくなく、総合研究としての利点が生かされていないと思われる。ただ、これまでマスコミを通じて成果をよく一般社会に公表しており、学術誌での特集も予定されていることから、期待した成果が研究期間内に出ると見込まれる。			